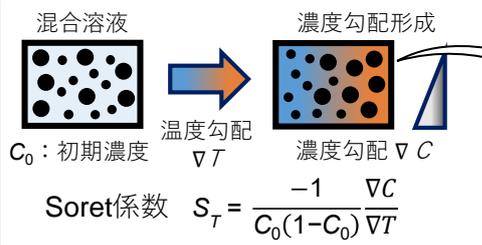


○小田嶋俊宏, 折笠勇, 富永晃司, 鈴木進補 (早大), 稲富裕光 (JAXA)

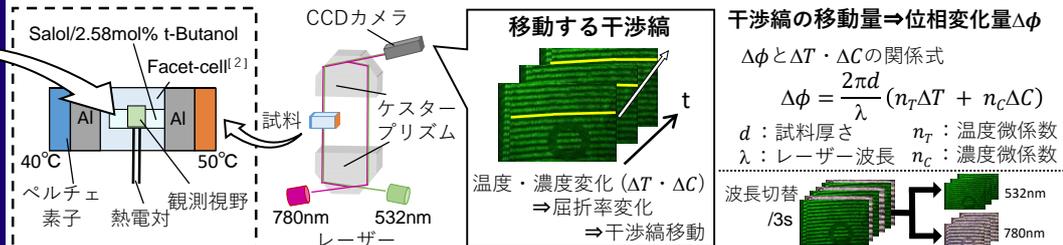
目的

干渉縞の位相解析法「**修正輝度法(本手法)**」が「**輝度法(従来法)**」より位相変化量 $\Delta\phi$ の精度が高いことを示す

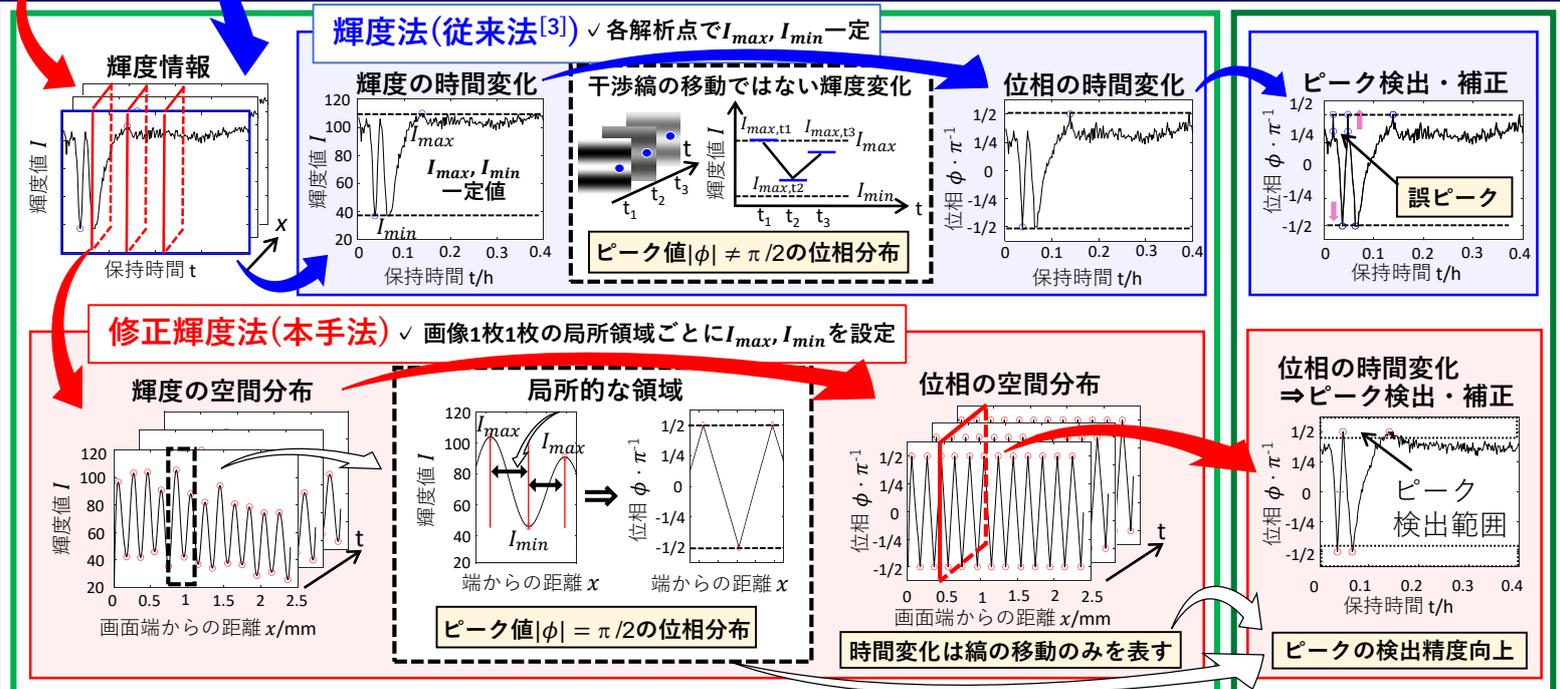
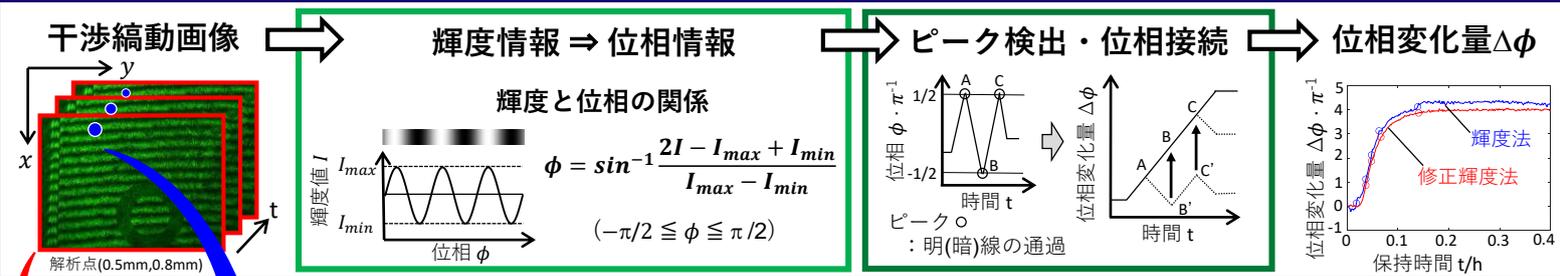
Soret効果



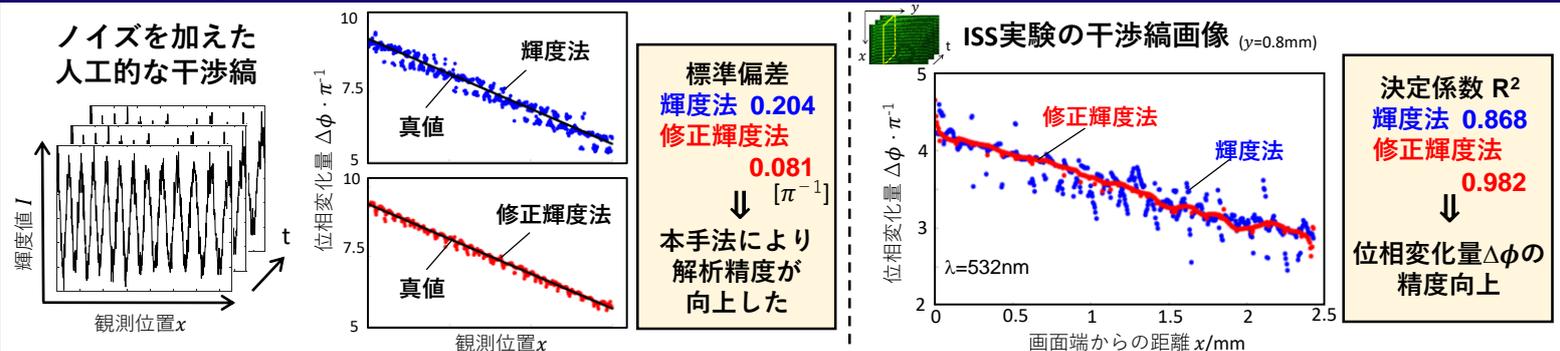
ISSでの干渉計による温度・濃度変化の測定^[1]



位相変化量 $\Delta\phi$ の取得



位相変化量 $\Delta\phi$ の解析精度比較



結言

修正輝度法(本手法)により空間上の局所的な領域で干渉縞の輝度値を位相に変換することで縞の移動のみを表す高精度な位相の時間変化が得られ、**輝度法(従来法)**よりも位相変化量 $\Delta\phi$ の精度が向上する